

オオヒョウタンゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科

Scarites sulcatus Olivier

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 準絶滅危惧

選定理由

開発や海岸浸食等で生息地である砂浜海岸が消滅しつつあり、生息環境、個体数ともに減少している。

形態

体長は37～42mmの大型種。体は円筒状で瓢箪型であり、頭部は巨頭化して大顎は大きく発達する。後翅は退化して飛べない。

国内分布

本州、四国、九州に分布する。海浜性であるが、一部地域では大河川の河原に生息するという。

県内分布

加賀市から志賀町までの砂浜海岸に生息地が点在している。

生態

成虫は6月から11月上旬まで見られ、8月下旬頃に新成虫が現れる。成、幼虫ともに肉食性である。夜行性で、昼間は深く砂の中に潜っている。

生息地の条件

海浜植物を伴う安定した広い砂浜海岸および海岸後背地。

生存の危機

沿岸部の土地開発、海水浴場のブルドーザーによる整備、道路建設などで砂浜の生息環境が極端に悪化している。また、砂浜に側溝が設置されることにより、本種が落下し、死亡個体が多く確認されている。飛べないことも減少要因のひとつとなっている。海浜環境の悪化は、本種のような食物連鎖の頂点にある大型の捕食性昆虫にとって、特に影響が大きいと思われる。(A)

特記事項

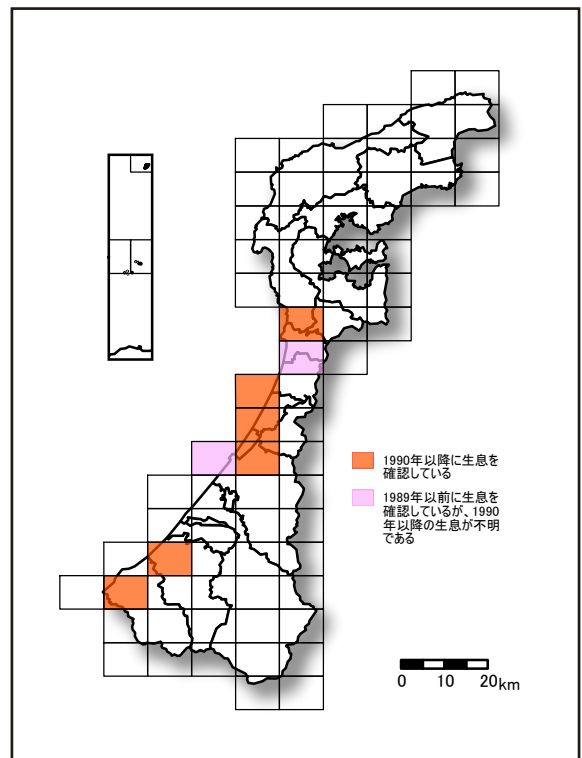
生息地では本種独特の足跡が砂地に残され、生息の指標となる。奥能登の広い砂浜海岸でも生息可能性があるため調査する必要がある。

参考文献

高羽正治 1998. コウチュウ目オサムシ科. 石川県の昆虫 : 103-120. 石川県自然保護課.



写真提供者: 富沢章



県内の分布